

京田辺市における不登校の現状と取り組み状況

小学校

【不登校生徒数】

	人数	市出現率	府出現率
H27	20	0.46	0.43
H28	21	0.49	0.48
H29	22	0.50	0.51
H30	31	0.71	0.56
R1	38	0.87	0.77
R2	39	0.91	

中学校

【不登校生徒数】

	人数	市出現率	府出現率
H27	81	4.25	3.00
H28	84	4.61	3.12
H29	80	4.36	3.21
H30	53	2.94	3.39
R1	68	3.69	3.63
R2	89	4.57	

不登校の学年別経年比較

小学校

中学校

	1年	2年	3年	4年	5年	6年		1年	2年	3年
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	H27	H28	H29	H30
	3	2	0	0	3	2	6	20	17	14
	1	2	4	3	5	6	5	17	21	16
	2	2	2	3	6	7	6	35	25	20
	29	32	34	19	27	35	25	32	27	28

経年比較では、小学校は年々、増加傾向にあり、出現率も京都府平均より高い状況が続いています。中学校では、平成 28 年度をピークに減少傾向にありましたが、平成 30 年度を境に再び増加傾向にあります。このように、不登校数の増加についての課題が見られることから、以下のような取組を行っています。

不登校の未然防止については、生活アンケート等を実施し、個人面談を行い、早期発見につなげ、必要に応じて家庭訪問を実施し、児童生徒と保護者との連携に努めています。

また、日々の学校生活において、担任を中心に、児童生徒の変化を見逃さず、少しでも気になる場合は、個別に話を聞くなど丁寧に対応しています。

課題の一つである中学入学以降の増加については、3 月の入学前小中連絡会と入学後の 6 月頃の小中連絡会において、情報交流を行うとともに、常に連携をとりながら児童生徒の状況を把握しています。

不登校児童生徒への支援については、ケース会議を開催し、アセスメントをもとに関係者の共通理解を図りながら、児童生徒に合った支援を行うことができるよう取り組んでいます。具体的には、家庭訪問や、別室登校等で学校とのつながりを保つ取組や、スクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザー等の専門家の個別相談、適応指導教室の活用など、児童生徒の思いに寄り添いながら、個に応じた支援を行っています。

児童生徒にとって、学校が楽しく安心できる場所であり、魅力ある学校、学級となるよう教職員が意識することで、不登校を防止するとともに、不登校児童生徒が、学校へ復帰しやすいような居場所づくりに努めています。